



2014年8月総括

今年の夏のキーパー選手権も、全国各地でたくさんのキーパープロショップの皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。

今年の8月は、1ヵ月間を通して、不安定な天気が続く、特に西日本においては、なかなか前年実績を上回ることができない状況が続きました。結果、来店台数は、前年の90%に留まりましたが、クリスタルキーパー(前年比120%)とダイヤモンドキーパー(前年比:135%)の伸びに支えられ、前年実績のある店舗で、東日本117%、西日本102%となり、全体で109%という結果となりました。

9月は、3月に次いで新車の販売台数が増える月となります。そのため、新車を購入されたお客様から、コーティングのお問合せが増えることが期待できます。リニューアルを行ったメニュー表、新メニューカタログを活用し、お客様のご期待、ご要望を確実にとらえ、応えていきたいと思ひます。

東日本事業本部 鈴置 力親
西日本事業本部 島中 修

8月	順位(位)	コーティング台数(台)		売上金額(円)				板金・その他(円)	合計(円)	前年対比(%)	人時生産(円/時)
		クリスタルキーパー	ダイヤアクア	一般			兼販				
				洗車・コーティング	アラカルト	室内関連					
① 札幌	5	122	13	3,921,295	1,052,743	289,133	776,647	890,318	6,930,136	118%	5,848
② 新潟県庁前	32	36	12	1,839,669	316,843	51,894	18,955	37,142	2,264,503	—	4,037
③ さいたま	28	40	17	2,816,758	384,572	175,090	63,894	14,465	3,454,779	198%	5,153
④ 浦和美園	17	72	20	3,628,805	701,543	268,264	113,334	3,782	4,715,728	140%	4,819
⑤ 草加	4	80	39	5,693,429	959,091	248,258	33,511	111,688	7,045,977	137%	5,210
⑥ 船橋	29	47	13	2,508,798	448,354	213,961	0	30,764	3,201,877	155%	5,003
⑦ 柏	18	63	13	3,199,462	764,806	234,359	87,854	11,081	4,297,562	125%	5,098
⑧ 松戸	8	65	10	3,228,194	1,258,427	391,064	90,349	738,115	5,706,149	106%	5,360
⑨ 松戸東	21	66	13	3,079,920	590,301	274,060	0	84,027	4,028,308	115%	5,140
⑩ 足立	1	125	34	6,764,739	1,171,390	580,116	204,859	125,636	8,846,740	110%	5,190
⑪ 板橋	2	102	23	5,504,079	1,503,759	464,162	31,282	20,257	7,523,539	105%	5,426
⑫ 世田谷	6	91	32	4,864,032	1,133,990	300,421	154,556	60,254	6,513,253	170%	5,363
⑬ 八王子	3	95	26	5,417,060	1,288,301	318,481	64,002	8,351	7,096,195	92%	5,814
⑭ 相模原	14	74	20	3,996,895	672,076	299,820	0	3,338	4,972,129	87%	4,776
⑮ 上溝	9	75	23	4,430,955	771,291	247,761	0	12,510	5,462,517	112%	5,263
⑯ 豊田	20	64	15	3,011,280	674,430	242,752	163,598	7,181	4,099,241	90%	4,507
⑰ 岡崎	7	82	22	3,950,369	1,463,524	430,143	431,038	189,839	6,464,913	110%	5,583
⑱ 安城	11	69	18	3,881,212	952,752	316,074	14,312	136,978	5,301,328	106%	6,045
⑲ 知立	23	61	7	2,071,558	1,000,417	285,535	507,530	24,675	3,889,715	90%	5,200
⑳ 刈谷	16	58	13	3,112,075	1,046,426	394,668	171,106	75,801	4,800,076	85%	5,032
㉑ 半田	33	25	11	1,479,488	286,088	81,468	42,714	34,679	1,924,437	—	2,720
㉒ 大府	10	69	17	3,305,728	1,574,497	328,472	173,172	22,057	5,403,926	105%	5,065
㉓ テクニカル	30	16	4	570,100	165,868	13,400	0	2,095,304	2,844,672	135%	3,711
㉔ 東海	15	35	14	3,309,567	1,271,317	246,382	70,616	63,600	4,961,482	90%	5,206
㉕ 鳴海	22	42	16	2,878,453	697,109	292,805	50,260	66,785	3,985,412	119%	4,890
㉖ 大須	12	72	26	3,182,562	991,717	233,657	642,356	215,545	5,265,837	108%	6,258
㉗ 中川	24	65	13	2,557,135	625,970	187,385	402,785	40,973	3,814,248	96%	4,789
㉘ 基目寺	25	51	13	2,817,346	598,035	205,609	82,430	11,337	3,714,757	110%	5,353
㉙ 一宮	27	60	12	2,673,803	528,921	122,984	149,445	29,247	3,504,400	105%	4,939
㊀ 鈴鹿	13	69	17	3,720,693	697,652	332,182	208,782	124,469	5,083,778	111%	4,643
㊁ 宝塚	31	37	11	1,919,207	643,942	108,412	0	79,725	2,751,286	—	3,738
㊂ 新漣	26	52	12	2,683,175	766,552	147,434	0	3,448	3,600,609	100%	4,226
㊃ 高松西	19	31	20	2,931,158	1,226,164	56,831	0	-1,583	4,212,570	88%	5,912
総合計		2,111	571	111,038,000	28,228,868	8,383,037	4,749,387	5,371,788	157,682,079	—	5,010
前年対比		120%	135%	112%	126%	94%	137%	122%	114%★109%	111%	

★前年実績のある店舗のみの値です。

SUPER GT REPORT

過酷な状況の鈴鹿戦、波乱の中を走り抜ける!

8/31(日) SUPER GT 第5戦 鈴鹿サーキット

最重量100kgのウェイトハンデを課せられ、1000kmを走り抜ける

シリーズ制覇へ向けて勝負権を握るべく各チーム戦略を練る中、ポイントリーダーで迎えた37号車 KeePer TOM'Sはルール上最重量100kgのウェイトハンデ(燃料リストラクター制限+50kg)を課せられ非常に難しい状況での週末を迎えた。土曜日の予選ではやはりウェイトハンデが響き14番グリッド。特にリストラクター制限を受けたRC F勢が後方に固まる結果となる中、チームメイトの36号車がポールポジションを獲得する予想外の結果に。決勝は最前列と最後方のポジションから初優勝とシリーズランキング首位獲得へ向け、1000kmという長い道のりを走り抜ける。

ハイペースで進むレース サバイバル戦へ向け力走

今回のレースでは交通安全運動の一環として、三重県警の先導による1周のパレードランが行われ、2周目に通常のフォーメーションラップからスタートが切られた。スタートは5時間を超えるレースを見据えて大きな混乱もなく、PPの36号車が綺麗なスタートを決めて半周で早くも後続との間隔を広げる。しかし、100号車のコースアウトをキッカケに前半戦の主導権を握ろうと特に中盤以降のチームが激しい順位争いを繰り広げる。37号車 KeePer TOM'Sもクリーンなスタートを決め、ハイペースで走る各チームの背後からチェッカーまでの道筋を見つけていく。

10周前後から300クラスのマシン渋滞に追いつき、テクニカルな鈴鹿で500クラスのマシンは非常に難しい走行を強いられる。今回はチャンピオン争いに残れるかという重要なレースの為、300クラスのマシンも簡単には譲ってくれず、いつもよりギリギリの戦いが続く。そんな中11周目には500クラスのトップ36号車と300クラスのトップ55号車が130Rであわや接触!となる危険なシーンがあり17号車はその隙をついてトップを奪った。早くもバンクに見舞われるマシン、突然のスローダウンにピットに向かうマシンとトラブルが始め、先が全く読めなくなる中、37号車は着実に走り11番手、まずはトップ10を狙う。

RC F同士の戦い、決定的な抜き所がみつけれない

早めにピットに入るマシンが始め8番手まで上がってくる。6番手まで上がり33周目に今日1回目のピットイン。前後のマシンがピットインのため難しい角度での作業となるが、無事ピットアウトしていく。47周目、1号車に追いつき、その前を走る直接のライバル12・6号車を追いかけていたが、両者重いマシンのため抜きどころを慎重に確かめながらの走行。70周目、20周以上にわたり1号車とのドッグレースを繰り広げていたが、ピットインを行い、再度ドライバーを替えての戦いとなる。87周目にトップ36号車がピットインをした直後、入れ替わった17号車が130Rを飛出しリアを激しく破壊! 静かなレースになっていたところで少しずつ波乱の予感を漂わせ始める。残り60周、レース2/3を過ぎて他のマシントラブルもあり7番手までポジションをアップ。例年このあたりからサバイバルレースが始まるが、混乱を切り抜けて上位入賞をめざし最後の最後まで我慢をしながら、一つずつ順位を上げる走りが求められる。



ペナルティでポジションダウンも着実にポイント獲得

130周目、2位を走る23号車がこのままの順位でチェッカーを受けると、シリーズで逆転を許す事になる為、ポイント差を縮めたいところ、8号車がスローダウン。6位入賞圏内へ上げてさらにポイントを積み重ねるべく走行する。136周目にこの日最後のピットストップを行い、伊藤大輔のドライブでチェッカーを目指して最終スティントへ向かう。しかし、6位のポジションを死守したい37号車だったがダンロップコーナーで300クラスのマシンに接触してしまう不運。これがペナルティの判定となり、無念のドライブスルーペナルティ消化のためピットへ。コースへ復帰した伊藤はその後力走を見せ7位でフィニッシュ。最後尾スタートながらポイントをしっかり獲得しシリーズ1位の座を23号車に譲るもポイント差はわずかに4レースポイント。次戦はウェイトハンデを各チーム半分に減らし初開催のタイ、プリーラムサーキットへ舞台を移す。

